

## 卒業生は今

鈴木ひろみ

生活文化学科  
2005年卒

若桑先生の教えを  
区議の政策に



私は、現在、新宿区議会議員として政治の現場で働かせていただいています。大学時代に若桑みどり教授に教えていただいた、「女性」「男性」という枠組みにとらわれることなく、誰もが「自分らしく」生きることが重要であるという概念が、私の現在の政治家としての基盤となっています。

つい最近まで、地方議会では、議員の出産による欠席理由の規定は「事故」という扱いでのみ取り扱われていました。そのような背景もあり、他の議会において、任期中に出産をすることでマタハラ等により、議員を続けていくことが困難になった女性議員の姿を目の当たりにしました。私は、そんな状況を変えたいという思いから、自身の議員任期中における産休取得実績を公表し、「新宿区議会における区職員の規定

を援用した議員の産休制度」を全国の自治体に提案しました。結果、第10回マニフェスト大賞において最優秀政策提言賞を受賞、NHKニュースをはじめ各種新聞等でも大きく取り上げていただきました。その後、全国の市町村議会で「標準規則」が改められ、欠席理由の中に「出産」が明文化されたのです。この改正により、出産を理由に議会を欠席できる規定が全国の都道府県議会で整備されることとなりました。

「女性の社会での活躍」が声高に叫ばれる現在においても、未だセクハラ、出産後の不本意な離職、子育てや介護と仕事の両立、シングルマザーの貧困など、女性を取り巻く社会状況には多くの問題が山積しています。

子育てをしながら議員活動をするのは大変ですが、家族や友人、支援者の方をはじめ、多くの方々に支えられていることを実感しています。一人ひとりが暮らしやすい社会を実現することが最大の恩返しだと思っております。川村学園で教わった「感謝の心」を忘れることなく、これからも邁進して参ります。